

産学連携プロジェクトが山形新聞に取り上げられました。

女子大生 瀬見温泉に活力



旅館前で写真撮影する川村学園女子大生たち
＝最上町・瀬見温泉

川村学園(東京)、最上・旅館組合に協力

最上町の瀬見温泉旅館組合(高橋昌裕組合長)が川村学園女子大(東京都豊島区)学生の協力を得て、温泉街活性化プロジェクトに取り組んでいる。女子大生9人が活性化につながるパンフレットの作成と散策コースの提案を目標に、3回にわたって現地視察を実施。28、29日に最後の視察と写真撮影を行った。

瀬見温泉では6月1日、信方法を模索しようと、同組合新共同浴場「せみの湯」がは昨年、組合関係者の知り合いが教員をしている同大オープンする。それに合わせ、観光文化学科の視点で魅力の発に協力を依頼。観光文化

科の現2年生9人が参加に名乗りを上げた。プロジェクトでは、共同浴場のふかし湯を紹介するパンフレットを作り、周辺の散策モデルコースも掲載する予定だ。

9人は1年生だった昨年9月と今年3月の2回、温泉街の旅館に宿泊して現地を視察し、旅館経営者と意見交換。風情ある温泉街を散策して五感で魅力を感じ、さまざまCafe(カフェ)や前森高原、赤倉温泉スキー場など温泉街内外の観光資源も見学した。豊富なコンテンツを目的の当りにし、パンフレット作成に手応えを得た。住民との交流も含め、あまりに楽しい滞在だったため、多くが「帰りたくない」とこぼすほど。帰京後も授業の合間を縫い、編集やレイアウトについて話し合った。今回の滞在はパンフレッ

新共同浴場の視察や撮影、散策コース設定

トに載せる写真の撮影が主目的。学生たちは浴衣に着替え、各旅館や湯前神社、亀若大橋といったスポットを巡回。自分たちがモデルとなって写真を撮影した。星野里佳さん(20)「新潟県弥彦村出身」は「温泉街の人は優しい人ばかり。この魅力を何とかアピールしたい」と意気込んだ。パンフレットは編集作業を経て今後、完成する。ゆめみの宿観松館の高橋裕専務(32)は「おじさんたちには作れないパンフレットができそう。女子大生らしき全開のPR方法を提案してもらいたい」と話している。

記者の目

若い感性に期待

旅館経営者との意見交換では、既存のパンフレットに厳しい駄目出しをしたという学生たち。今回は以前に宿泊した旅館を再訪し、女将や仲居から実の娘のように迎えられていた。それだけ住民の心に深く入り込んでいたのだろう。若く、斬新な感覚は活性化に役立つ。新たなにぎわい創出に期待したい。(菅原武史)